

## 病院前救護における脳局所酸素飽和度測定調査研究

研究責任者：泉州南広域消防本部 警防部警備課長 寒川 徹

当消防組合では標記の臨床研究を実施しております。

ご自身の情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合や、研究内容についてご意見やご質問等あれば、下記⑦の問い合わせ先にお問い合わせ下さい。

### ① 対象

平成30年8月1日から平成31年3月31日までの間に、脳局所酸素飽和度測定器を配備する当消防組合所属救急隊が対応した、心肺停止、意識障害又は循環不全を呈する傷病者を対象とする。

### ② 研究機関名

泉州南消防組合 泉州南広域消防本部

### ③ 目的

局所酸素飽和度( $rSO_2$  : regional saturation of oxygen)とは、動脈・静脈・毛細血管を含む酸素飽和度のことである。生命の危機的状態にある傷病者に対する蘇生処置における脳内  $rSO_2$  の変動を病院前の段階から解析することにより、新たな病院前救護における蘇生処置に有用なモニタリング情報としての確立及び蘇生戦略の構築を目的とする。

### ④ 方法

救急隊により、①の傷病者接触後に  $rSO_2$  測定器を前額部に装着し、脳内  $rSO_2$  値を測定する。

### ⑤ 意義

脳内  $rSO_2$  は額にセンサーを貼付するのみで無侵襲かつ連続してモニタリングをすることができる。本研究は病院前の救急隊接触時の段階から、脳内  $rSO_2$  のデータ収集・解析し、病院前救護における有効性を検証するものである。本研究により、 $rSO_2$  の蘇生中の変動値が心拍再開時のサインとなることや神経学的予後を改善する指標となることが確認できれば、胸骨圧迫の質や蘇生処置の妥当性の評価を行うことができる可能性がある。また、救急隊接触時の  $rSO_2$  値と心停止してからの時間関係や神経学的予後との関連性が確認できれば、医療機関へ伝達する有用なモニタリング情報として活用される可能性や、新たな救急隊の活動プロトコルの構築の検討にも繋がる可能性がある。

### ⑥ 個人情報の扱い

匿名化を行い、個人情報を保護する。

### ⑦ 問い合わせ先

泉州南消防組合 泉州南広域消防本部 警防部警備課救急係 (Tel 072-462-1080)  
研究主担者 木村 信広